

山形大学 男女共同参画報告書

令和元年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
令和元年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

山形大学 男女共同参画報告書

令和元年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)活動報告
令和元年度山形大学活動報告

work
life
balance
innovation

目次

ごあいさつ 山形大学理事・副学長／男女共同参画推進室長	5
-----------------------------	---

I. 山形大学独自の取組

① 男女共同参画行動計画と推進組織

①-1 目的・基本計画・令和元年度具体的施策（行動計画）	6
①-2 男女共同参画推進委員会委員名簿と委員会議事	11
①-3 男女共同参画推進室員名簿と室ミーティング議事	14
①-4 男女共同参画推進室米沢分室員名簿と分室会議議事	15
①-5 男女共同参画基本計画（第2次）の策定	16
①-6 男女共同参画推進室活動記録	19

② 活動報告

②-1 意識改革	
(1) 学長・学部長と教職員等とのワーク・ライフ・バランス懇談会、研修会	21
(2) 男女共同参画フェスタ（パネル展示）	23
②-2 仕事と育児等との両立支援	
(1) 小白川キャンパス保育所のびのび	24
(2) 小白川キャンパス保育所つぼみ	26
(3) 医学部保育所すくすく	27
(4) 医学部病児保育室	28
(5) 荘内銀行キッズワールドあゆみ	28
(6) 託児サポーター制度（学童の一時預かり）	29
(7) 研究継続支援員制度・学会参加時の保育支援制度	29
(8) 相談制度	30
②-3 女性研究者の裾野拡大	
(1) 女性研究者裾野拡大セミナー	31
(2) 山形大学女性大学院生ネットワーク	34
(3) 令和元年度基盤教育・ジェンダー関連授業	35
②-4 アウトリーチ活動	37
②-5 広報活動等	39

II. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)の概要

① 事業の概要	40
② 実施体制	41
③ 取組内容	42
④ 令和元年度事業計画	44
⑤ 年次計画概要	46

Ⅲ. ダイバーシティ事業の活動報告

① 連携体制の推進	
①-1 ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事	48
② ネットワーク	
②-1 山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）	50
②-2 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」	51
②-3 全国ダイバーシティネットワーク組織	52
③ 意識改革	
③-1 男女共同参画セミナー	53
③-2 3機関合同シンポジウム	55
④ 研究とライフイベントとの両立支援	
④-1 研究支援員制度	59
④-2 夜間保育、休日保育、病児・病後児、学童保育利用料補助制度	60
④-3 ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度	61
④-4 相談員制度	61
④-5 託児サポーター制度	62
⑤ 女性研究者の研究力向上	
⑤-1 サービスデザインプロジェクト	63
⑤-2 女性代表共同研究費支援制度	64
⑤-3 英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー	65
⑤-4 外部資金獲得セミナー	66
⑤-5 自己啓発合宿	67
⑤-6 女性研究者研究成果発表会	70
⑥ 女性研究者の裾野拡大	
⑥-1 JOIN交流会～企業研究者との交流～	71
⑥-2 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー	72
⑥-3 交換留学プログラム	73
⑦ 広報活動	78
⑧ 評価	
⑧-1 外部評価委員会名簿・委員会内容	79

Ⅳ. 資料編

① ダイバーシティ事業3機関の進捗状況	83
② 山形大学の男女別教員数と女性割合	96
③ 山形大学の女性活躍推進法に基づく行動計画	97
④ 山形大学の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定について	98

ごあいさつ



男女共同参画の新たなステージに向けて

阿 部 宏 慈

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、令和元年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。今回の報告書では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の活動報告も合わせて行っております。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」は5年目を終えるところです。中間評価では、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加などの目標を達成していることが認められています。後半の自主運営期間においても3機関の密接な連携を継続し、女性研究者のさらなる増加を目指すとともに、これまで以上に山形大学COIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの研究成果の社会実装と地域還元を図っています。今年度はCOIとの共催で地域連携プラットフォーム会議（8月）、3機関合同シンポジウム及び女性研究者・若手研究者の交流会（11月）を開催しています。さらに、他機関への波及の面においても、全国ダイバーシティネットワークの幹事大学として南東北のネットワークを構築し、山形県内のダイバーシティ推進ネットワーク会議の活動を一層充実させることができました。まさに県内ダイバーシティネットワークと全国ネットワークのつなぎ役として、地域を牽引する段階に至っています。

さて、山形大学は、平成21年に男女共同参画推進室を設置し、平成22年に策定した「山形大学男女共同参画基本計画」に基づき、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～令和2年度）の採択を経て、充実を図ってきたところです。この計画期間が令和元年度で終了することから、昨年度は本学の男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果や今後の課題を明らかにするための学内アンケート調査を実施しました。

今年度は、山形大学男女共同参画基本計画（第2次）を策定し、併せて関連規程の一部改正を行いました。策定にあたり、男女共同参画推進委員会にワーキンググループを設置して検討を重ね、3回の男女共同参画推進委員会を開催しました。昨年度実施した学内アンケートの結果を踏まえ、我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に方針及び具体的施策を定めました。女性教員比率や女性管理職比率はこれまで以上に高い目標を設定し、無意識のバイアスや性的指向・性自認等への配慮なども明記しました。目標を達成するため、必要な改善措置等について男女共同参画推進室を中心に各キャンパス等において具体的に検討し、達成状況を毎年点検していきます。来年度は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の最終年度ですが、相乗効果にも期待しています。

今後、山形大学は男女共同参画の新たなステージに進むことになります。「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、男女共同参画及びダイバーシティを推進し、学生と教職員が性別等にかかわらず個性と能力を發揮できる大学づくりを加速していきます。大学教育の転換期と言われる中、様々な困難も予想されますが、関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。